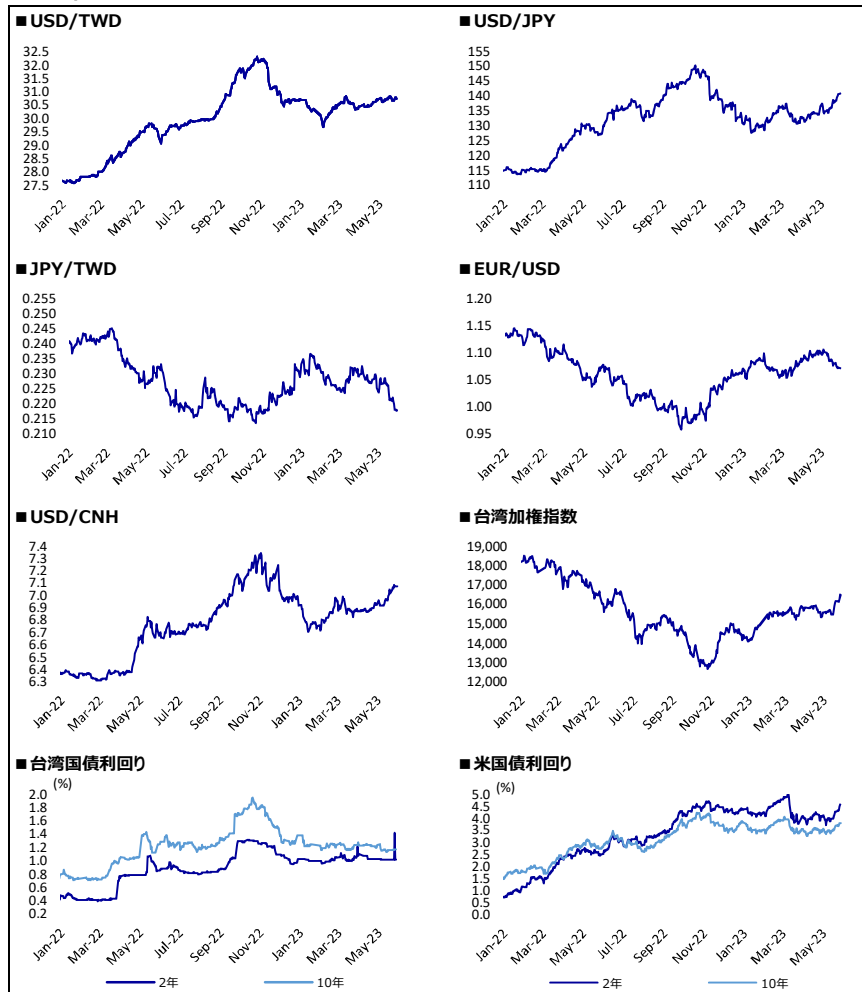


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初5/22は30.660でオープン後、台湾株が堅調に推移すると一時30.595まで下落、しかし、輸入企業のドル買いもあり30.67付近に戻した。5/23は台湾株が上昇するも米金利の上昇を受けた海外への投資資金の拡大により、ドル台湾ドルは30.75近くまで上昇。5/24は米国の債務上限問題への不透明感からリスク回避の動きが強まり、台湾株が下落するとドル台湾ドルは一時30.8台に乗せるも、輸出企業のドル売りが上値を押さえ、30.7台後半で推移。5/25はオープン直後に30.825まで上昇したものの、米半導体大手の決算発表を受けて台湾株が急反発すると30.78付近まで下落。5/26も半導体関連株は買われ、台湾加権指数が約1年ぶりの水準をつける中、30.70近くまで下落。最終的には先週比0.2%ドル高台湾ドル安の30.748で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は735.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/22は137.95でオープン後、前週末のパウエルFRB議長の発言や債務上限問題から上値は重く、137.50まで下落。しかし、FRB高官からタカ派発言が相次いだことから138円台半ばまで上昇。5/23は、FRB高官のタカ派の発言や米債務上限問題に関する報道、強弱入り交じる米経済指標などを背景に138円台でもみ合い推移。5/24は英4月CPIの強い結果やウォーラー・FRB理事による利上げ継続を示唆する発言を受け、米金利は騰勢し、ドル円は139円台半ばをつけた。5/25は格付会社から米国債の格下げの可能性が示唆されると一時138円台後半に急落も139円台に戻すと、米新規失業保険申請件数と失業保険継続受給者数が共に予想を下回る等、良好な経済指標を受けて約6か月ぶりに140円台をつけた。5/26は米4月PCEコアデフレーターが予想を上回ったことや、米債務上限問題が進展が見られたことから、ドルが買われると一時140.73をつけた。引けにかけては連休を前に小動きとなり、最終的に先週比1.9%ドル高円安の140.61で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.500-30.750
今週は下落すると見込む。米半導体大手の決算内容をきっかけに台湾株が買い戻されている。米債務上限問題も基本合意されたため、リスクオンの台湾株高台湾ドル高の流れとなるであろう。また、月末の輸出企業のドル買いもサポート材料となると見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：138.00-142.00
今週は上昇を見込む。米債務上限問題への不透明感が払しょくされ、今週は米経済指標に左右される展開となるであろう。6月のFOMCはデータ次第との見方が強い中、足許の堅調な経済指標の通り、強い結果が続くと米金利の上昇につられてドルが上昇する展開となるであろう。

今週の予定

5/29 (MON)	米国休場
5/30 (TUE)	米5月消費者信頼感指数
5/31 (WED)	米4月JOLTS求人件数、米ページブック
6/1 (THU)	米5月ADP雇用統計、米5月ISM製造業景気指数
6/2 (FRI)	米5月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。